

問1.

【0002】

一部の管轄区域では、起訴されたもしくは有罪判決を受けた個人、または保護命令を受けている個人に、保釈または保護観察下での釈放の条件として、その個人の所在を監視するための電子タグ装置であるいわゆるアンクルモニターが取り付けられ、一定の制限の下で自宅で生活することが認められることがある。アンクルモニターは、主に、電子タグ装置本体と、装置を着用者の足首に固定するバンドとからなる。このバンドには2つの必須条件がある。第一の必須条件は、着用者は、いかなる手段によっても、バンドを外し、装置を取り外すことができてはならないということである。第二の必須条件は、人権侵害だと非難されることを避けるため、バンドが着用者の皮膚や肉体に害になったり、怪我の元になってはならないということである。

【0003】

第一の条件は、実際には非常に困難である。なぜなら、アンクルモニターを外そうという強い意志を持っている着用者は、切断したり、燃やしたり、削るなどの様々な利用可能なあらゆる手段を用いて、アンクルモニターを取り外そうと試みるからであり、実際、その取り外し作業の最中に重傷を負う者もいる。第二の条件を考慮すると、単にバンドをより頑丈にするということは解決策にはなり得ない。

【0004】

したがって、バンドの表側(外側)の面と裏側(内側)の面とで、全く異なる特徴や性質を持たせることは至極当然と思われる。

問2.

【0076】

図1から図11に示す第1の実施形態によれば、本発明の折り畳み式ナイフ10は、主に、ブレード12と、長手方向Aに延びるハンドル14とを備え、ハンドル14は、収容空間を画定するライナーブロック16を備える。

【0077】

ブレード12は、ブレード12のベース(ヒールとも称する)12. 1を貫通する枢動軸18によってライナーブロック16に枢動および開閉可能に連結され、ライナーブロック16上に固定される。これにより、ブレード12は、閉じ位置と開き位置の間を枢動可能となる。閉じ位置においては、ブレード12はライナーブロック内の収容空間内に12収納され、開き位置においては、ブレード12はハンドル14と一直線となる。

【0078】

図6はブレード12を単体で図示しており、具体的には、長手方向のカッティングエッジ12. 2(「エッジ」とも称する)、エッジの反対側にあるバック12. 3、ポイント12. 4、および、ポイントとは

反対側あるベース／ヒール12. 1を示す。ベース／ヒール12. 1は、ライナーブロック16上の枢動軸18用の穴20を有する。

【0079】

なお、ライナーブロック16はハンドル14内に、つまり実質的に長手方向Aに摺動する。このため、ハンドル14は、U字形のハンドル本体22を含み、ハンドル本体22はボトム24から成り、このボトム24からは2つのウイング26が延びている。ハンドル本体22は、ここではU字形の断面を有しているが、部品を組み立てることによって製造されてもよい。ハンドル本体22は、金属または任意の他の適切な材料から作ることができる。

問3.

【請求項1】

天然石、コンクリート、セラミックス等の切削用切削工具であって、
前記切削工具は超大口径ディスク(10)を備え、
前記ディスク(10)は、前記ディスク(10)の周辺部(12)上に、円周方向に間隔を空けて配置された複数の切削セグメント(16)を画定する手段を有し、
前記切削セグメント(16)はそれぞれ、半径方向外側に開口し、軸方向に開口する溝(14)を画定する手段によって分離されており、
前記溝(14)は、切削工程の最中に切削くずを受け止め、排出できるように構成され、
前記切削セグメント(16)はそれぞれ、円周方向に延在する長さを有し、その上に、各切削ピースの全長と同じ長さを有する手段であって、少なくとも1対の切削ピースを画定する手段を有し、軸方向に対向する複数の側壁を含み、均一な軸方向の厚さを有し、かつ、円周方向(U)に波形又はジグザグ形状の少なくとも一方の形状を有し、
互いに隣接しかつ軸方向に対向する切削ピースの表面は、切削ピース同士の間にある、半径方向外側に開口する連続的に円周方向に延在するチャンネル(22、24)、を画定するように、互いに間隔を空けて配置され、
それぞれの前記切削ピース上の手段は各切削ピースの長さに沿って交互に間隔を空けて配置された複数の頂部と複数の溝部とを画定し、
一方の切削ピースの一方の側面にある前記頂部は、前記一方の側面に面した他方の切断ピースの側面の前記溝部内に収容され、これにより、前記ディスク(10)の回転面において円周方向に延在する前記チャンネル(22、24)の非妨害連続性を妨害することができる。